



## 木の郷ぎふの家 御嵩建築 の住まい創り新聞

Vol.29

今回のテーマ  
現場レポート  
アレルギーと衛生仮説



雨楽な家 笑家族SK-28  
リビング

### 現場レポート

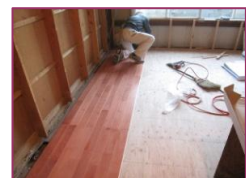
#### ◎Y様邸建替え工事

お施主さまがご家族力を併せて、大黒柱を立てられました。  
ここにまた、「しあわせ」が増えます。職人一同、思いっきり腕をふるいます。  
瓦を葺いています。職人さんが「やっぱり瓦は和形(わがた)にかぎる」と。  
瑕疵担保責任保険の2回目の検査(躯体・防水検査)をしました。  
無事に合格です。  
ベランダの防水工事が始まりました。天井下地が組めて来ました。  
玄関ポーチの軒天に杉板を貼っています。  
外壁にガルバリウム鋼板を貼っています。  
階段の(周り)段板を取り付けています。腕の揮いどころですね！



#### ◎A様邸リノベーション工事

御嵩町A様邸のリノベーション工事が始まりました。  
まずは解体工事です。どう、リノベーションされるか？「お楽しみに！」  
トイレ、エコキュートなどの給排水配管をしています。  
浄化槽工事。コンクリートが固まり、浄化槽の本体を入れました。  
爆弾みたいですね(笑)。  
床にサクラの無垢フローリングを貼っています。きれいですね！  
壁に板を貼っています。木の香りがこちいいです。



【当社ホームページより抜粋。詳しくは **ぎふの家** 検索！】

### Topics

2月3日開催しました「木の家博覧会」では、しっくい塗りの体験が大盛況でした。  
多くのご来場ありがとうございます。次回は3月24日(日)を予定しています。

先日、社長の亀井が「地盤インスペクター養成講座」を受けてきました。  
(インスペクターとは・・・検査や監督する者。)  
どんなに立派な建物を建てても、土台がしっかりしていなくては何なりません。  
まず、足元(地盤)の安全から！  
住宅地盤のご相談を承ります。「お気軽に！」



## アレルギーと衛生仮説

昨年12月、小学生が給食を食べて、アナフィラキシーショックで亡くなるという痛ましい事故がありました。

子どもだけでなく大人もアレルギー体質を持つ人は珍しくありません。食物アレルギーの場合は、同じ鍋で以前に調理したもので反応が出たり、別の鍋で調理した湯気に含まれているもので反応が出るということもあります。体内に取り入れなくても、傍にあるだけで反応してしまう場合もあります。牛乳を拭いた雑巾を洗った後、それに触れたら反応が出たというケースもあります。

また、食物依存性運動誘発アナフィラキシーは、ある特定の食物を食べた後に運動をすると、その刺激でアナフィラキシーを起こし症状があらわれます。

花粉症もアレルギーの一種ですが、同じ環境にいても症状が顕著な人もいれば、それほどでもない人、まったく平気な人に分かれます。

お酒を飲んですぐに真っ赤になる人もいれば、底無しに飲む人もいます。こうした反応には個人差が大きく、またアレルギーを起こす条件もさまざまです。

一律に「これはアレルギーに良い、悪い」と言い切れないのが、難しいところなのです。



## 衛生仮説

20世紀のはじめには、0.3%だったアレルギー疾患の患者は、今は3人に1人にまで増えたとされています。ここまで激増した理由のひとつに衛生仮説というものがあります。

上に兄弟が二人以上いる人では、アレルギー疾患になる率が低いという調査結果があります。兄弟がいる家庭では、上の子が風邪をひいて、下の子にうつすということがよくあります。下の子は、上の子がいることで細菌やウイルスに感染する機会が多いということです。花粉症の調査でも、下の子になればなるほどかかりにくいという調査結果もあります。

ハウスダストに含まれる細菌由来の毒素(エンドキシン)の量と子どもの抗体を調べた調査でも、エンドキシンの多い家、ようするに不潔な家で育った子どもの方が、抗体値が低くアレルギーになりやすいという結果が出ています。アレルギーが問題になりはじめた当初は、原因は遺伝と考えられていましたが、近年になり先進国で急激に増えたアレルギーは、清潔になった社会が招いたという説です。

日本でアレルギー体質が増え始めたのは、昭和30年代、高度成長に入ってからだといわれています。それまでは家畜が身近にいる農村だったところが、都市化し、機械化されることで、免疫のバランスが崩れたというのです。

この説には一定の説得力があります。

衛生仮説が正しいとして、乳幼児期に清潔すぎたのだ、と今更言われてもどうしようもありません。子どもに対しての話であり、大人は今から不潔にしてみたところでそうした効果はありません。

また、小さなお子さんをお持ちの場合でも、どのぐらい「不潔」ならいいのか、その匙加減は一定ではありません。家畜のいた環境に近づけるために、犬や猫を飼うと、糞尿に含まれるエンドキシンによってアレルギー予防になるという疫学調査がある一方で、猫がアレルゲンになることもあります。兄弟が多いと、免疫獲得機会が増えるかもしれませんが、病気のリスクもそれだけ増えます。一概にどちらがいいとは言えません。

何かを急に変わっていくと、どこかに問題が出るということは、免疫・アレルギーのことに限りません。

エネルギーの問題にしても、原子力をやめて50年前の社会に戻れるかといえばそれは困難ですが、

省エネや創エネといったことで、その二択ではない別の解決方法は見いだせるはずですが、

完全に自然のまままで生きられない私たちは、矛盾も抱えながら過去にも学んで慎重に前に

進んでいく、ということしかないのでしょうか。人には、そういう力も備わっていると思います。

